

ウォーターフロント振興支援事業報告

秋田市ポートタワー再生プラン策定事業

秋田市

みなとまちづくり講演会

港とまちを結ぶまちづくりの取り組み～小名浜港アクアマリンパークの取り組み～

<講演録>

日時：平成20年 2月21日（木） 14:00～15:30

場所：ホテル大和

講師：小名浜まちづくり市民会議 事務局長 鈴木泰弘

司会 講演会は社団法人ウォーターフロント開発協会の支援事業の一環として開催いたします。港とまちを結ぶまちづくりの取り組みというテーマでご講演をいただきます。

それでは早速講演会に移らせていただきます。講師の先生をご紹介します。小名浜まちづくり市民会議事務局長鈴木泰弘様でございます。

それでは先生よろしく願いいたします。

講師 鈴木泰弘 みなさんこんに

ちは。只今ご紹介いただきました福島県のいわき市の小名浜で小名浜まちづくり市民会議という団体で事務局長をしております鈴木と申します。どうぞよろしく願いいたします。実は、今日ここにお呼びいただいた経緯ですが、社団法人ウォーターフロント開発協会さんの総会が、先般、いわき市で開催されました。そこに講師としてお呼びいただきまして、お話をさせていただきました。そこに秋田市の方もおいでになっておりまして、今回こういう策定委員会に私に白羽の矢



が立ったという次第でございます。一緒にまちづくりをしていく仲間として、小名浜でこんなことをしてるんだという状況をお話しさせていただきたいと思っておりますので、皆さんどうかよろしくお願い申し上げます。私は、生まれも育ちも小名浜でございます、港町で育ておりますので、学生時代含め数年間、東京にいただけで非常に荒い言葉を話します。そんなときに小名浜弁が出るかと思っておりますが、よろしくお願いいたします。

まず、ご存じかもしれませんが、いわき市小名浜という所を紹介します。福島県の一番南側にございまして、隣りが茨城県の北茨城市、車で茨城県まで10分位の所にありまして、仙台などに行くよりも東京

へ行った方がずっと近いという場所がございます。気候も大変温暖な所です。東京で雪が降っても小名浜では降らない。さらには、学者や病院の先生方の調査によりますと、静岡と小名浜がタラソテラピーという予防医学に大変適した温暖な地域であるという評価もいただいております。そういう温暖な地域です。潮目が常磐沖にございまして、黒潮と親潮がちょうどぶつかる地点がございますことから、気候が温暖じゃないかという調査があります。

いわき市は、昭和40年に大合併いたしまして、現在35万人ほどの人口、静岡が合併する前は、一番日本で広い市だったのですが、その中の旧小名浜市というところでして、76,000人の人口で、まちづくりをするには30数万という規模の人口よりは、小名浜の様な人口のほうが活動しやすいのかなと思います。そんなことで旧市のなごりが有りますが、それぞれの旧市地域で、いわき市というのは活動をしているということもございます。

そこで小名浜の発祥、港の発祥をご紹介します。もともと幕府直轄地でございまして、その後石炭の積出港として栄えておりました。一昨年、開港50周年を迎えて、我々もイベント等対応させていただきました。映画をご覧になったかと思いますが「フラガール」の舞台となったのがいわき市常磐で、ここからパイプラインで名浜港まで石炭を運んでございまして、その影響で今の産業港としての発展があるというところでございます。

実は、大正当時、内務省の港湾予算がゼロ査定になったことがございました。地域の活性化が進まないだろうということで、市長はじめ、議員・民間人が内務省に陳情に行きました。小名浜人が集結をして港湾予算復活の呼びかけをいたしました。その白だすき隊が、現在の小名浜港の基礎を築いたということで、小名浜の港のみえる公園に碑を飾っております。

小名浜港は重要港湾に指定されていまして、最近、みなとオアシスという、にぎわい空間・親水空間に指定されております。貿易港・産業港として、外貨コンテナが就航してございまして、その外貨が伸びています。これは、韓国航路とフィーダーしてございまして、来年度から予算がつけました東港というポートアイランド計画が進みますので、外国のコンテナが更に伸びるだろうということで、今後、整備が進められます。

港を起点にしたまちづくりという活動をする以前にも、我々いろんなことをしてございまして、その一つが「いわき港まつり」という事業で、小名浜港を使って花火大会などを開催してございまして、今年54回目になります。もともと港で亡くなった方の鎮魂の為ということで開催したものが、現在、こういう形になっております。

資金的にも活力的にも厳しいのですが、50数年続いてきたまつりを、我々の代で無くすということは出来ませんので、新しい仕組みを作りながら頑張っているところでございます。それで、実行委員会で大曲の花火も視察にきたことがあります。

港を起点にしたまちづくりということで、港の将来に向けていろんな市民団体等で活動を続けて参りました。先ほどのポートアイランド計画も数十年にわたって推進して参りまして、ようやく形が見えてきたところです。様々なイベントを開催し、盛り立てながら小名浜港の整備に繋げていこうという活動をしてきました。現在、環境型水族館がございまして、親水空間を作っていこうという誘致活動を20数年間続けまして、平成12年にオープンしました。このエリアには他に観光物産施設がございまして、そういった立ち上げにも関わって参りました。

こういう活動を、諸先輩方が長年行って参りました。小名浜地区には、まちが良くなればという目的で、いろんな団体が活動して参りました。商工会議所、経済界の団体等、目的が同じであれば一つに集約して大きな流れをつくらうじゃないかということになりました。当時活動していた28の団体、あと市役所に御協力をいただきまして、回覧板を作りまして、まちづくりをしませんかという呼びかけをいたしました。地元の優良企業の方に御協力をいただき、統括して市民参加型のタウンマネジメントまちづくり市民会議を立ちあげました。当初の目的は、港とまちを一体化した活動をしていこうということでした。行政と民間が力を合わせて総括的に管理運営する、タウンマネジメントという手法を取り入れて、まちづくりを進めていこうということで組織を立ちあげました。

この市民会議を立ちあげまして、そのテーマを確認いたしました。やはり港町ですので、港とまちが一体となったまちづくりを進めていこうということでスタートしました。団体として一過性のものでなくて、継続的に進める必要があるということで、この5つのモットーを掲げました。資金的にも苦しかったので出来ることから始めました。情報の共有化とか知恵を出し合おうということでスタートしたわけでございます。

活動の中で方針として打ち出してまいりましたのが、一つは行政とパートナーシップを組むことによって地域振興を図っていこう、という大きな方針をたてました。もう一つは市民参加型というスタイルを取り、活動していこうということです。大きな活動といたしましては、一緒にまちづくりを進めていけるシステムづくり、興味を持ってくれる人を増やしていこうということが一つ。2つ目としてアクアマリンパークをにぎわい空間として盛り立てていくこと。3つ目に衰退が激しい中心市街を再生していこうということ。4番目ですが、最初でご説明しましたとおり歴史文化が残っておりますので、それをまちづくりに活かさないかという、大きな柱を掲げまして事業展開をいたしております。

第一番目の方針の、システムを作っていく活動ですが、市民参加型というスタイルを取っておりますので、我々でまちの大計をどう作っていこうかということで、まちづくりランドデザインを策定いたしました。市民参加型でございますので、いろんな形で意見を出してください、というように募集いたしました。ワークショップを毎月行いました。百数十名の市民の方が参加して下さり、1年間かけて、ランドデザインとして取りまとめをいたしました。ただ、一団体が掲げた構想は、なかなか実現に向けて物にしていくというのは難しいと思います。そこで、市の都市計画課に持ち込みまして、一緒に出来ないかということで話しました。ちょうど、マスタープランの改訂時期にぶつかっていらしたので、もう少し精度を高めて計画に持ち上げて行こうということで、いわき市とまちづくりパートナーシップ協定というものを締結しました。個別具体的な計画にしていき、のちの進行管理も行政と民間で一体として進めて行こうという協定です。

現在は、ここでまとめた計画を一つ一つ実現に向けてアクションを進めている段階です。市との共同研究なのですが、古い合併都市だった小名浜というのは、公共交通機関も無いところで電車も通っていません。港は有りますが、道路は整備されていない。地方分権を市民参加型で進めていく議論を、大学の先生と進めてまいりました。

パートナーシップの内容ですが、計画を作りまして、お互いの作業として役割分担をしています。策定した計画は、市が進めること・民間が進めること・共同で進めること、そして短期・中期・長期という時間を組み合わせて、どうアクション展開をしていくかということになります。月一度、市の方々と協議を進めております。

港とまちが一体となったまちづくりに基づきまして、直結する港の大通りを、現在、福島県の事業で進めております。県が作った道路に対して、いわき市が景観重点地区を作りました。小名浜を感じられる景観にしようということで、建物の色・看板・高さの規制等の原案作成を我々がしまして、条例の制定に至ったものです。ただ単に計画を作っただけでなく、沿線の住民及び事業者が500件おりました。全ての方に、道路景観が出来ますという説明をしてまいりました。行政も一緒に回って、大きな反対も無く制定に至りました。ここ数年で直結する道路ができるでしょうが、まちづくりに大きな影響を与える道路だと思います。

アクアマリンパークにぎわいづくりというのがございます。アクアマリンパークというのは、小名浜港の一号ふ頭のベイエリアで、みなとオアシスに指定されている空間です。その他の小名浜港の港というのは、コンテナと石油コンビナートがいくつがあるという工業色の強い港です。

アクアマリンパークというのは、市民に開放されたところにしようということで、20数年間、誘致活動を続けてきた成果だと思っています。運営協定の説明をしますが、港湾管理者というのは福島県になります。小名浜まちづくり市民会議と協定を結びまして、利用頻度をあげる為に運営の委託をいただいています。市民団体がイベントをするときに、この会場を使っただけということで官民一体となって行っている事業でございます。まちづくりランドデザインの中で、我々がデザインしたものが形になったと

いう事例です。

また、小名浜港は、外部から釣り客が大変多くいらっしやいます。アクアマリンパークを釣り客に開放しておりますが、マナー向上を呼びかけようということで、ボランティアを呼びかけて、ゴミを拾うだけでなく釣りを教えたりしていただいております。

アクアマリンパークのイベントと利用の状況ですが、昨年ですと、延べ日数で149日30件ほどのイベントが開催されています。港ですので夏場に集中しております。この中で地域のボランティア団体でフリーマーケットを開催したり、我々の活動としては、スーパースプリントトライアスロンの全日本選手権を行っております。

我々の大きな事業となっております、倉庫の再開発事業をご紹介します。

平成12年にアクアマリンが出来る前から、この中心部に40年を経過する民間の倉庫がありました。にぎわい空間として、もう一度考えて行く必要があるということで、十数年がかりで形になってきたものです。

具体的になったのが5年前でした。国・県・市と我々が議論を行いまして、民間の土地建物を県で買収し、中心部2棟を取り壊して4棟を使っていこうということになりました。倉庫という建物を再生して中を使うという形ですが、国と県が事業費を出して外観を整備しまして、民間が運営していくというスタイルを採用して、平成20年4月にオープンいたします。

内部を商業施設にしまして、もう一つをイベントホール、3号4号棟は音楽施設・スポーツ施設として、来年度以降、整備していく方向です。

県の建物を民間が借りて運営するというスタイルですが、指定管理者ではございません。NPO団体とかまちづくり団体というのは、事業を行っていく母体としては難しいので、株式会社を設立しました。ショッピングセンターのデベロッパー事業者として再開発を行っています。

グランドデザインを策定していく中で確認をしてきたのが、港色を出したものの、アジア的なもの、またタラソテラピーを活かしたものと、港に従来ない機能を持たせていこうということになりました。アジア的リゾート感を思わせる開発を進めて「小名浜美食ホテル」というものを作ります。ここでしか食べられない・買えないというものを開発することによって、リゾート感覚で来ていただけるようなショッピングセンターを目指しております。

中心市街地の再生ということをお話します。日本商工会議所の統計では、全国の94%の市が衰退しているそうです。小名浜も非常に衰退しているまちです。地域格差というものがかばれていますが、行政に全て任せていては、格差は埋まらないと思います。公共事業は減っていますから、地域を再生させようと言っても難しいと認識しております。そこで、我々が活動していくしかないんじゃないかということで、再生を進めております。コミュニティの再生ということでスタンプ・ポイントカードを利用し、小名浜の金を小名浜から出さないようにしました。スタンプで地域循環の社会を作ろうということで、160社の企業が参加しています。通常のイベント事業も行っておりますが、グランドデザインに基づいたものです。

まちづくりの中心市街地の再生ということで、我々の活動の拠点なんですが、中心部の銀行跡を借りまして運営をいたしております。公民館・市民会館は中心市街から外れておりますので、市民会議などに使用していただいております。

四番目のアクションとして、歴史と文化を活用しようというのがあります。もともと幕僚であった町の文化を伝えていこうというものです。地区には、昔の網元が沢山いまして、「うだつがあがらない」の元になった「うだつ壁」というのがあります。これをなんかの形で利用しようということで、港町資料館というものを開館して資料の紹介などしております。文化歴史講演会なども行っています。資料館の一部は、先ほどの倉庫の中に併設する計画です。また市民大学をスタートいたしました。一年間かけて港とまちを勉強していこうというもので、港湾事務所の方々と運営しております。また、アクアマリンパークには沢山の観光客がいらっしやいますので、案内人の養成もしております。

行政と民間とで地域再生をしていこう、ということですが、活動も日本では形として成り立っていないのではないかと考えています。民間団体が担うべきは、「よろずやさん」だと思っています。自分たちが

地域に対して何が出来るかということを見返りを求めた上で活動すべきものだと思います。見返りが無くては、まちづくりをする意味が無いからです。地域貢献でもあるでしょうし、活動のなかでリーダーシップだとか行政だけではないパートナーシップとか、協力の連携・参加の拡大を求めていながら、まちづくりというものの組織力を付けていきたいと思っています。

地域のマネジメントを目指して活動していますが、まちというものを土俵にあげて、我々が素敵にしてあげるのがマネジメントだと思っています。何らかの形で、今後、民間でまちづくりを行うという一つのシステムを構築した中で、地域格差というものを埋められる活動に繋がれたらいいな、というのが最終の目標です。港町ということでお呼びいただいておりますので一つだけ申しますと、まちづくりを進めていく中でシステムということ議論しながら進めていく必要があると思います。行政が言うキレイ事ではなく、港や空き地で何かのイベントをやっても、にぎわいという継続的なものにはならない。経済社会でするので、経済的な背景というものがつきまといます。例えば、再生の手法としては同じかもしれませんが、新しい生業というものを作っていく必要があると思っています。冒頭話しましたとおり、生業をもとに港の再生をしていく必要があります。公共の投資というのは土俵づくり、生業を作っていくのは民間の仕事だと思います。

今の時代に合わせたものを作っていく時代だと思っています。参考になればと思います。ありがとうございました。

司会 ありがとうございました。イベントの取り組みなど、いろんな切り口からお話いただきました。お聞きしたいことがございましたら挙手していただきますようお願いします。

フロア 今のお話を聞いて、土崎としては参考になることが多いと思います。昔からの港祭りなんですけど、通りの電柱を無くしてもらいたいです。資料館を作る材料も非常に多いと思います。昔から事業をやっている方が沢山いますので、展示して欲しいですし、また、空襲エピソードもあります。今のお話を聞いて、土崎はもっと活性化出来るんじゃないかと思っています。美食的な土産品みたいなことも開発すればもっとよくなると思います。



司会 行政に対する要望がおおかったようですが、それに対して鈴木さんにかございましたらお話下さい。

鈴木 出来ることを先行してやっていくというのは、地域の活性化に繋がると思います。いろんな方を巻き込んでいただければ、除々にではありますが、活性化すると思います。応援いたします。

嶋田 秋田市と土崎の関係と似ていると思いました。セリオンの指定管理者として働いていますが、市民と一体化になっていない、秋田市は一生懸命頑張っていただいておりますが、何が足りないのか巻き込むことが出来ない。非常に沢山のグループがあるのに一体化できないので、どうしたら一体化出来るのか教えていただきたい。

鈴木 どうやってまとめたかというお話ですが、各種団体のメンバーや影響力がある方とか数名で何度も集まりまして、それにいろんな人を増やしていきました。それを何度もやりました。いろんな所に行って同じスタンスの話をするわけです。一人が二人、二人が三人というコンセンサスの作り方で、人海戦術というところなんです。現在、メンバーの中心となる者が定期的にマネジメントの会議をしています。そこで方針を決めて委員会に落として、組織として機能する形をとっています。それで裾野を広げているということになります。

嶋田 土崎の町と港をむすびつける時に距離があるかなと思うんですが、小名浜の街中と港の距離はどれくらいありますか。

鈴木 結構ありますよ。ここと同じくらいあります。しかしその間に臨海鉄道のヤードや飲み屋街があります。大通りの整備というのを、そのヤードを移転して再開発して道路を一本通そうとしています。ソフト的には港でイベント活動とかで街の中とうまく結びつける仕掛けを取りつつあります。街にいる人が港を起点として背後地に情報を発信するような仕組みにするように仕掛けています。

フロア 大変参考になりました。行政と組んでいては成功はないということで、火がつかしました。「いわき港まつり」のなかで港まつり実行委員会の話がありましたが、市民会議の中の一つなのか、全く別の組織なんでしょうか。

鈴木 市民会議の28団体のひとつです。実行委員会は50何年の歴史がありますので古い団体です。市民会議は市民活動をしていく、いわき港まつり実行委員会はまつりを統括する位置づけをしています。スタンプクラブという商業のまちづくりをする団体と3つの意義を持たせて活動しています。

浅野 かつて小名浜に三年間勤務いたしました。さきほどポートタワーに登ってきました。どんどん集客数が減ってきているそうです。年間の観光客を呼び込む施設が無いのがいけないと思います。これから作るのか分かりませんが、行政がもっと遊びを取り入れて、頑張っていけば民間の団体もついていってくれると思います。大きな力強い講演だったと思います。有難うございます。

司会 これで講演会を終了いたします。

以上